

アニメ・ツーリズムの可能性－マンホール蓋に描かれたアニメ作品

天野 宏 司

I はじめに

近年、観光事象の大衆化（マス・ツーリズム）や、バブル期の開発型のリゾート開発を基盤とした観光のあり方に対するアンチテーゼとして、新しい観光（オルタナティブ・ツーリズム）が志向されている。アニメ・ツーリズムは、このひとつに位置づけられるものである。コンテンツ・ツーリズム¹⁾は、小説・詩歌などコンテンツ全般を対象とした観光のことを指す。アニメ・ツーリズムもこの一部である。天野（2018）²⁾は、国立国会図書館のデータベース（NDL-Bibe）を活用し、近年の研究動向から「フィルムコミッションに対する注目が2001年頃から高まり、2007年から映画やテレビのロケ地を探访するフィルム・ツーリズムの時代であったとするならば、2010年代は、アニメーション（以下、アニメ）を素材としたアニメ・ツーリズムの時代である」とした。

アニメ・ツーリズムの成立を考えた場合、図1に示す三者の活動が並立しないと成立し得ない。即ち、制作サイドは逼迫する制作費を安価に仕上げるため、ロケーション・ハンティングを行い、実存風景に依存する。このことによって、空想上の設定を起すことなく、その費用軽減が達成できる。副次的な効果として、地域との協力関係が築けた場合³⁾アニメ・ツーリズムの実現に向け、協力体制の構築に期待が出来る。

旅行者（ファン）サイドの活動を考えた場合、一義的には、作品世界を追体験したいとの欲求に基づくものであり、大きく見れば「他者と異なる観光を行いたい」とのS.I.T.への渴望と位置づけることが出来る。

最期に地域サイドである。各地における観光資源

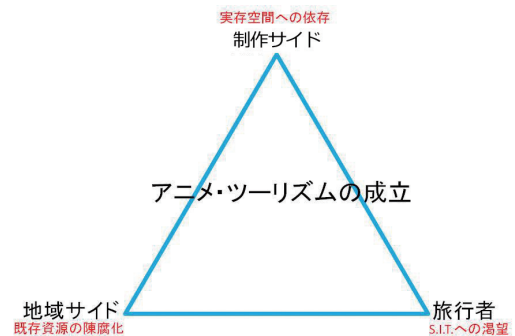


図1 アニメ・ツーリズム成立の要件

を考えた場合、①そもそも観光資源の不毛地帯であり「観光」に力点を置いていないケースや、②既存観光資源が現代社会のニーズにマッチせず陳腐化しているケースなどは、新しい観光へのシフトや着地型観光へのシフトの中で「新しい観光資源」を地域の側から創出する必然性を生み出した。そこに、アニメ作品の舞台となることで、新しい観光資源として「アニメ作品」を位置づけることが可能となる。

アニメ・ツーリズムに沿って観光資源の創出を考えた場合、狭義にはアニメの舞台やその世界観を反映した「場」を観光資源として活用しつつ実現されるものである。アニメ・ツーリズムの浸透とともに、研究対象としてのアニメ・ツーリズムも俎上に上がり、現在の研究のトレンドは観光者の動向の分析を中心に行っている。一方、アニメ・ツーリズムを広義に捉えれば、作者出身地（居住地）・制作会社所在地もその対象になり得る。

そこで本稿である。本稿は地域サイドの活動のひとつとして行われているマンホール蓋の設置に注目した。現在、全国的にアニメ・ツーリズムの誘客の一手段として、アニメをモチーフとしたマンホール蓋の設置が行われている。この設置の歴史を概観す

ること、その系統分類をすること、その背景分析をすること、以上3点を本稿の執筆目的とする。

Ⅱ 先行研究と調査方法

1) 先行研究

デザイン・マンホール蓋の起源は、1977年に沖縄県那覇市に設置された、ガーラ（カスミアジ）デザインのマンホール蓋である。この後、下水道の普及とともに1980年代後半に全国的にデザイン・マンホール蓋が広まっていった。大きなきっかけになったのは1986年頃⁴⁾に開催された「下水道マンホール蓋デザイン審査会」である。約1,100の自治体が応募し、20枚の蓋が選ばれた。おそらくはバブル景気によって自治体財政も潤沢になり、独自のマンホール蓋をデザインし、作成する余裕があったものと思われる。

マンホールおよびマンホール蓋に関する技術的な先行研究は数多く存在する。マンホール蓋だけに限定しても、

- a) 技術開発に関する研究⁵⁾
- b) 新しい価値（特に広告媒体として）の創造に関する研究⁶⁾
- c) デザイン・マンホール蓋およびそのグッズ化、マンホール・カードに関する研究⁷⁾
- d) その他(映画に登場するマンホール, デザイン・マンホール蓋の教育利用に関する研究, マンホール蓋の交換事業など)⁸⁾

本稿は、c)の類型に属し、特に「月刊下水道」編集部(2021)の論考を深化させたものである。

2) 調査方法

本稿において、アニメ系・マンホール蓋を以下の2点によって定義する。

- ① マスメディアにおいてアニメ化され・公開されている作品をモチーフにしている物で公設のマンホール蓋
- ② 直径約600mmの円形の物

従ってYouTubeで公開されている『人力戦艦! ? 汐風澤風』(福島県いわき市)やディズニールランド内に私設されているミッキーマウス・マンホール蓋は①により除外され、②によって小径蓋も除外して考える⁹⁾。以上の定義により、2022年12月31日現在、567種類のマンホール蓋を抽出した。これらのマンホール蓋について、[1]設置市町村・[2]設置年・[3]モチーフ・[4]製法・[5]由来の調査を行った。[2]に関しては、設置市町村の担当者に対する聞き取りのほか、下水道プラットフォームによってマンホールカードが作成されている場合、マンホールカードに記載された設置開始年を参照した。[4]については可能な限り実見して記録を行った。567種類のうち326種類を実見し、241種類は未見¹⁰⁾である。未見の物に関してはインターネット調査を行った。[5]の由来については、以下の4系統の由来に分類をした

- ① 作者出身地(居住地)・制作会社所在地
- ② 作品舞台
- ③ プロジェクト物
- ④ その他

①は、マンホール蓋のモチーフになっている作品の作者の出身地(または居住地)、あるいは作品の制作会社の所在地であることを理由にマンホール蓋の設置が行われているケースである。これは、広義のアニメ・ツーリズムの実現事例と捉えうる。これに対し、②は狭義のアニメ・ツーリズムの実現事例である。作中舞台として取り上げられた地にマンホール蓋が設置されているケースである。③は、近年大量に増加している事例である。ひとつの作品をモチーフとして統一的に展開をするケースで、2022年現在、3作品において展開中である。④は、①～③のいずれにも分類不可能な事例を④その他とした。以下、次章においてその結果を示す。

Ⅲ アニメ系・マンホール蓋の現状

1) アニメ系・マンホール蓋の分類と歴史

アニメ系・マンホール蓋を分類した結果、567種類(2022年12月31日現在)のアニメ系・マ

ンホール蓋が存在する。図2は2012年と2022年の10年間におけるアニメ系・マンホール蓋の全国分布を図化したものである。2012年段階では全国に4自治体・4種類のマンホール蓋しか存在していないものが、2022年には286自治体1組合・567種類へと全国へ拡散している。これを分類すると、①作者出身地（居住地）・制作会社所在地、149種類、②作品舞台、74種類・③プロジェクト物、324種類・④その他、20種類に分類される。①～④の各ケースを設置年ごとに図化した物が図3である。アニメ系・マンホール蓋の初見は高知県旧香北町（現香美市）の『アンパンマン』マンホール蓋である（図4）。香北町出身のやなせたかし氏のデザインで作成され1996年から使用されている。デザイン料・毎年のデザイン使用料は発生していない。この年、香北町には香北町立やなせたかし記念館 アンパン

マンホール蓋が存在する。図2は2012年と2022年の10年間におけるアニメ系・マンホール蓋の全国分布を図化したものである。2012年段階では全国に4自治体・4種類のマンホール蓋しか存在していないものが、2022年には286自治体1組合・567種類へと全国へ拡散している。これを分類すると、①作者出身地（居住地）・制作会社所在地、149種類、②作品舞台、74種類・③プロジェクト物、324種類・④その他、20種類に分類される。①～④の各ケースを設置年ごとに図化した物が図3である。アニメ系・マンホール蓋の初見は高知県旧香北町（現香美市）の『アンパンマン』マンホール蓋である（図4）。香北町出身のやなせたかし氏のデザインで作成され1996年から使用されている。デザイン料・毎年のデザイン使用料は発生していない。この年、香北町には香北町立やなせたかし記念館 アンパン

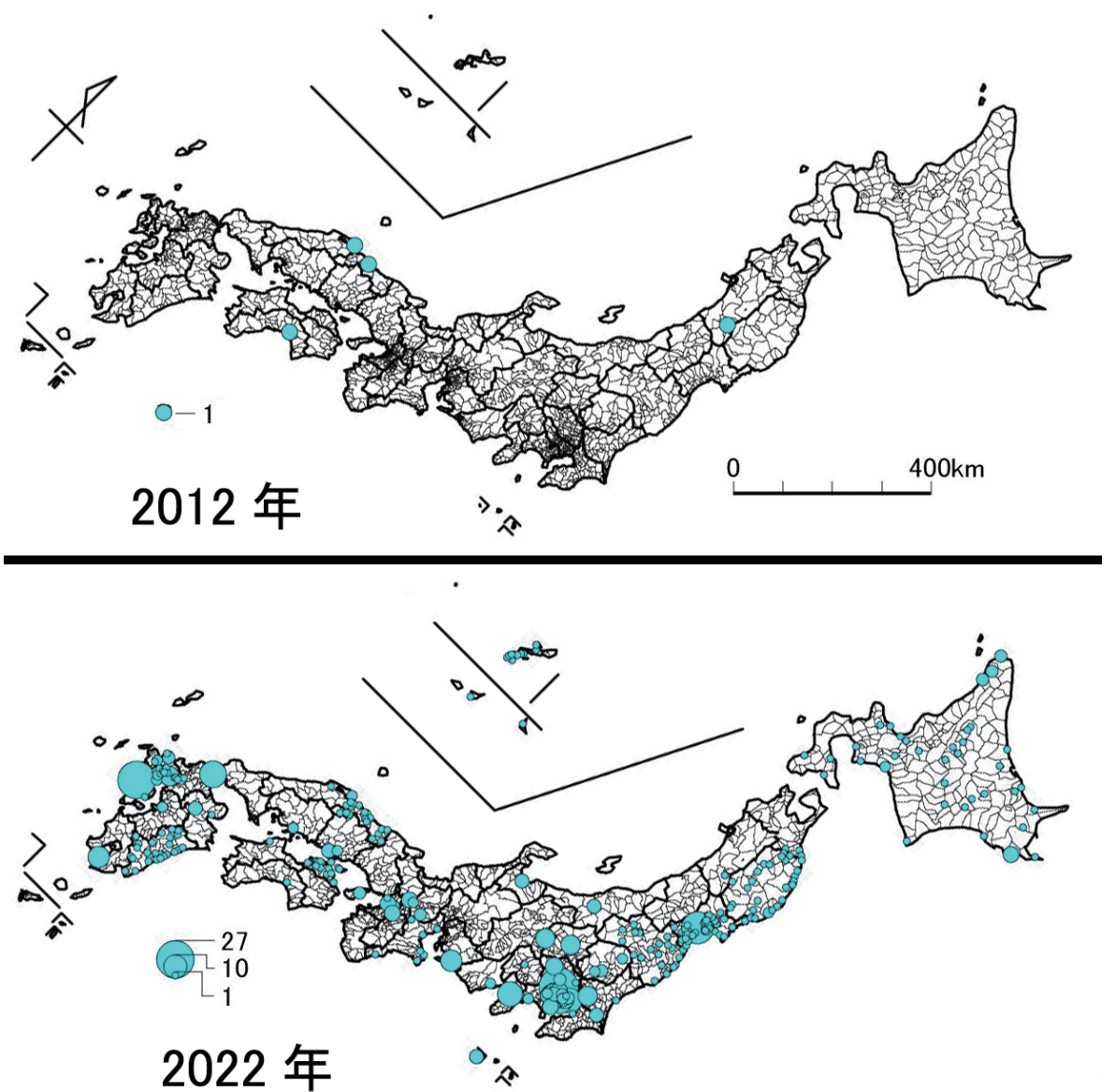


図2 アニメ系・マンホール蓋の全国分布
天野作成

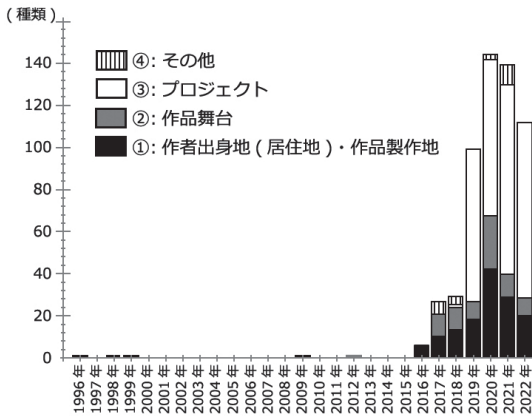


図3 アニメ系・マンホール蓋の経年変化
天野作成



図5 釣りキチ三平・マンホール
秋田県横手市・©矢口プロダクション
2022年8月 天野撮影



図4 アンパンマン・マンホール
高知県香美市・©やなせたかし/フレーベル館・TMS・NTV
2022年3月 天野撮影

マンミュージアムが開館しており、アンパンマンに依存してまちおこしが行われた一環としてマンホール蓋が設置されたと考えられる。次いで設置されたのは1998年、秋田県旧増田町(現横手市)の『釣りキチ三平』マンホール蓋(図5)、さらに1999年、鳥取県旧大栄町(現北栄町)の『名探偵コナン』マンホール蓋で1990年代の設置は終わる(図2上段)。旧増田町・旧大栄町ともにマンホール蓋上に著作権表記がデザインされていないのが特徴である。おそらく、この頃の著作権に対する意識は、

現在ほど厳密ではなく、通常のマンホール蓋に入っていないのと同様入れなかった物であろうと推測される。逆に言えば、旧香北町でしっかりと©表記が入った状態でデザインされていることには先進的な著作権意識を感じる。

旧増田町は『釣りキチ三平』の作者、矢口高雄氏の出身地であり、旧大栄町は『名探偵コナン』の作者、青山剛昌氏の出身地であり何れも、①作者の出身地に設置された事例である。旧大栄町の事例は詳細の記録が残っていないため不明ながら、旧香北町の事例・旧増田町の事例とも、マンホール蓋に関するデザイン料は発生せず¹¹⁾、継続使用に対する使用料も発生していない。旧大栄町のものを含め、作者の出身地を理由とした地縁的なつながりの元、マンホール蓋の作成が行われている。

旧世紀中に設置された3例以降、アニメ系・マンホール蓋の設置が次に行われるのが2009年の境港市『ゲゲゲの鬼太郎』マンホール蓋である。境港市は、『ゲゲゲの鬼太郎』の作者、水木しげる氏の故郷であり、JR境線・境港駅から水木しげるの記念館にいたる水木しげるのロード上に鬼太郎マンホール蓋は配置され、明らかに観光資源としての水木しげるの記念館および水木しげるのロードを意識して設置され

ていると考えられる¹²⁾。『ゲゲゲの鬼太郎』をモチーフとしたマンホール蓋は、東京都調布市にも2016年に6種類設置され1作品＝1地域の結びつきは薄まった。「作品世界に身を浸すこと」をアニメ・ツーリズムの本旨とするならば、①のケースは「作品が生み出されたところ」への探訪を来訪動機とした広義のアニメ・ツーリズムの一環と捉えることが出来る。

②のケースは、まさに「作品世界に身を浸す」ために来訪する観光客に向けて作品舞台にマンホール蓋を設置したケースである。この初見は2017年に茨城県大洗町に設置された『ガールズ&パンツァー』マンホール蓋(図6)である。狭義のアニメ・ツーリズムを実現するために作品舞台であることを下水道管理者である地元の市町あるいは都¹³⁾が誘客を目的としてマンホール蓋を設置したと思われる。

ここで注目すべきはその種類数である。①作者出身地が149種類であるのに対し、②作品舞台は74種類と半数以下に留まる。つまりは、マンホール蓋を活用したアニメ・ツーリズムは、「作品世界に身を浸す」という本旨ではなく、「作品が生み出されたところ」への探訪を動機付けるべく活用されている事例の方が歴史的にも古く、その数も多いのが現状である。論者の経験上¹⁴⁾、狭義のアニメ・ツーリズムを実現させようとすると、地元サイドは、力学的には制作サイドに従属的であり、著作権的にも許諾を得るための権利者が多岐にわたる場合がほとんどである¹⁵⁾。一方①作者出身地(居住地)・制作会社所在地は、地縁関係に由来するがゆえに、絵柄のデザイン・使用の許諾と言った事務作業において地元の意向が通りやすく、事務負担も少なく、多くの場合においてデザインの使用許可に著作権料が発生しない点においてアニメ系・マンホール蓋が数多く実現しているのであろう。

設置された種類数で言えば、③プロジェクト物が一番種類が多い。プロジェクトは現在ポケットモンスターを題材にした(1)「ポケふた」、『機動戦士ガンダム』をモチーフにした(2)「ガンダムマンホールプロジェクト」、『ゾンビランドサガ』・『ゾンビラ

ンドサガ リベンジ』を題材とした(3)「ゾンビランドサガマンホール 全20市町設置プロジェクト」の3作品3プロジェクトが進行中である。(1)は、2018年に鹿児島県指宿市に設置された「イーブイ」(図7)を皮切りに、全国220市町村・282種類へと増大した¹⁶⁾。



図6 ガールズ&パンツァー・マンホール
茨城県大洗町・© GPF
2020年2月 天野撮影



図7 ポケふた(イーブイ)
鹿児島県指宿市・© Pokémon.
2022年9月 天野撮影

(2)は2021年、神奈川県小田原市に設置されて以降6市町・12種類に拡大した¹⁷⁾。(3)は、「ゾンピランドサガマンホール」佐賀県全20市町設置プロジェクト¹⁸⁾によって、2021年に第1弾として6市・14種類、2022年5月に第2弾として7市町7種類が、第3段として2022年11月に、今まで未設置であった7町(計8市町9種)に設置された。(3)のケースは、(1)・(2)のケースが、全国の自治体から参加を募り、著作権者側から設置自治体へマンホール蓋を寄贈¹⁹⁾して設置されているのに対し、同じく著作権者側からの寄贈によって設置されているのは共通ながら、はじめから「佐賀県内の全市町に設置ありき」と「設置すること」が目的化していた。

④のケースは、設置の理由は様々である。株式会社サンリオは親会社としてサンリオピューロランドを東京都多摩市で、大分県日出町ではサンリオキャラクターパーク ハーモニーランドを経営している。それぞれ多摩市ハローキティ・デザインの3種類、日出町にハローキティ・デザインの1種類のマンホール蓋が設置されている。同社は、アニメ系・マンホール蓋のデザイン協力を積極的で、同じくハローキティ・デザインのマンホール蓋は那須塩原市に2種類・富山県富山市に1種類存在する²⁰⁾。このほか、新宿東宝ビルは、実物大のゴジラヘッドがビルを彩り街のランドマークになっていることと関連してゴジラ・デザインのマンホール蓋が2種類設置されているなど20種類のマンホール蓋が何かしらの理由をつけ設置を正当化している。

2) 素材の進化とデザイン

マンホール蓋の設置には車道に設置する場合と、歩道に設置する場合で求められる耐荷重性に違いがあり、調達コストも変わってくる。大石(2017)²¹⁾は、マンホール蓋に求められる広義の安全機能を簡潔にまとめ、①がたつかないこと・②破損しないこと・③浮上・飛散しないこと・④耐スリップ・⑤耐腐食・⑥転落・落下しないこと・⑦不法投棄対策・侵入対策が充分なこと・⑧雨水の流入を防ぐことを挙げ、車道部で15年の・その他の部分で30年の耐久性

などが求められるとした。これらを満たすためにダクタイル鋳鉄製であることが一般的である。従来デザインマンホール蓋は、鋳物の型からオリジナルで制作することが多く、それ故大量の枚数を制作することが多かった。これに対し、2010年頃から図8に示すように、鋳物製の台座の上にデザインプレート
を固定するプレート式マンホール蓋が登場した²²⁾。本稿では、前者を鋳物式、後者をプレート式と区別して呼称する。2022年12月31日現在、鋳物式が414種類、プレート式が152種類、その他マンホール蓋に直接描いた事例1種類が存在する。

プレート式の場合、デザインプレートは交換式であり、専用のインクジェットプリンターなどでデザイン画を再現出来ることから、緻密な表現・発色性などにすぐれ、コストも安価である。まずコスト面である。埼玉県所沢市はデザインプレート部分を広告媒体として2018年から活用している。このプレート部分に関する制作費用は44,000円²³⁾と要綱に明記される。他市町村での聞き取りでもおおむねこれに近い金額が示唆された。これに対し鋳物式の場合、制作仕様にもよるが、歩道用3点(同一デザイン)・異カラーで1枚約30万円と、大幅な金額の差が存在する。ついで、デザインの再現性である。図9はどちらもハローキティがデザインされたマンホール蓋である。富山県富山市のものはプレート式、大分県日出町のもの
は鋳物式である。両者を見比べると、著作権に関する©表示がプレート



図8 デザインマンホール蓋の構造
小田原市 HP より引用 (<https://www.city.odawara.kanagawa.jp/field/water/sewer/sewer/p29201.html>
2023/03/03 閲覧)



図9 プレート式(富山県富山市)と鋳物式(大分県日出町)マンホール蓋の著作権表示
日出町(2022年4月)・富山市(2022年6月) 天野撮影

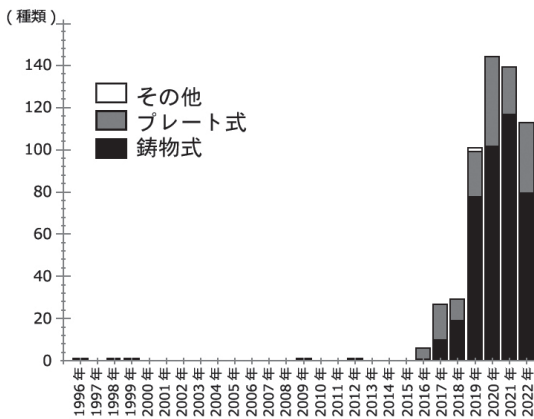


図10 アニメ系・マンホール蓋の素材経年変化
天野作成

式ではあるのに対し、鋳物式では存在していない差異がある。株式会社サンリオが著作権を持つであろうデザイン・マンホール蓋は全国で5区市町15種類ある。うち、鋳物式6種類には©表示は無く(ゆえに著作権者が不明)、プレート式の9種類には「© SANRIO」の著作権表示が入る。株式会社サンリオ

のマンホール蓋担当者への聞き取りによると、著作権表示の有無は、プレート式は再現性が高く緻密な表現が可能なおことから©の表示を行い、鋳物式の場合は著作権表示の©を再現出来ない可能性から入れていないとのことである²⁴⁾。鋳物式の場合、型を作るための細部の再現性はプレート式よりは劣るであろうし、カラーマンホール蓋の場合、樹脂インクを流し込むことによってカラー化をしており、自ずから発色に制限があると思われる。

図10はアニメ系マンホール蓋の制作が、鋳物式・プレート式のどちらで行われているかを経年変化で示したものである。プレート式の初見は東京都調布市の「ゲゲゲの鬼太郎」マンホール蓋6種である。プロジェクト物が資本力を背景に費用のかかる鋳物式で作成されているので図10ではわかりにくいだが、プレート式での制作事例は増えているのが分かる。鋳物式・プレート式どちらも1点もののワンオフが多いものの、鋳物式の場合複数枚作成されることも、ままある。いずれにせよ、再現性に優れるプレート式はアニメ系マンホール蓋との親和性は高く、採

用例は増えるであろうと想定される²⁵⁾。

IV アニメ系・マンホール蓋と新たな商機

上述のように、この10年でアニメ系・マンホール蓋は激増をした。技術的にはプレート式の採用で簡単に、かつ安価に増やすことが可能であるが、実際には図10に示すように鋳物式の増加が顕著である。この背景には、全国展開するプロジェクト物の存在が大きい。特に「ポケふた」は2022年12月31日現在で279枚にのぼり、アニメ系・マンホール蓋のほぼ半数を占める。プロジェクト物の共通点として、大手企業による1点もののマンホール蓋の作成と、それを市町村へ寄付によって実現する。デザインは企業側が行い、原則的に地元の意向は反映しない。したがって指宿ニイブイ好き、香川県ニうどん県ニヤドン²⁶⁾、「福」島県ニラッキー²⁷⁾と言った名称の類似性はまだしも、東京都小笠原村のミュウなど、何を理由として選定されているのか？が類推出来ないケースも多数存在する。いずれにしても、マンホール蓋を寄付する行為そのものからは企業には利益はもたらされない。が、そこに新たな商機が加わることによって企業側のメリットになり得る。ポケふたは書店・雑貨店ビレッジバンガードを展開する株式会社ヴィレッジヴァンガードコーポレーションによって、ポケふたデザインそのものが商品化されている²⁸⁾。例えば、金属製「小さなマンホール」であったり、「ラバーキーホルダー」・「缶バッジ」・「ポストカード」などである。この独占商品化の権利を新たに創出し・販売することが新たな商機となる。マンホール蓋をデザインとした商品はビレッジバンガードだけでなく、様々な企業が関連して開発している²⁹⁾。この活動は企業だけではない。例えば東京都東久留米市は、手塚治虫氏が居住していたことを表象し『ブラック・ジャック』を題材としたマンホール蓋が市内5箇所に設置されている。これをマグネットや缶バッジ、キーホルダー、コースターに仕立てた物がふるさと納税の返礼品に使われている³⁰⁾。

その商品化はアニメ系・マンホール蓋だけに留ま

らないが、いずれにせよマンホール蓋を新たな商材として活用することは、「下水道は汚い」との負のイメージを払拭することに繋がっている。

V 今後の展開と問題点—おわりにかえて—

しばらくはアニメ系・マンホール蓋の設置は増えていく物と思われる。既存の有名アニメと地域の結びつきでまだマンホール蓋化が実現していない地域は沢山ある上に、年間200本近い新作アニメーションの中で、Iで述べたような理由から実存風景への依存はますます高まるであろう。

しかしながらである。アニメ系・マンホール蓋は次に抱えるみつつの問題点が今後表面化してくると思われる。

(1)増加するアニメ系・マンホール蓋への食傷

2022年12月31日現在で567種類あり、本稿執筆の2023年3月現在で既に50種類以上の設置が判明ないし予定されている。他地域との差別化が困難になりつつあると同時に、そもそも消費財であろうのアニメを誘客の要因としていつまで利用し続けられるか？は懸念される。

(2)地域性の喪失

アニメ・ツーリズムは、地域とアニメ作品の強い結びつきが存在しないところでは成立しづらい。この結びつきが1作品＝1地域であれば問題ないものの、1作品＝複数地域でアニメ系・マンホール蓋が設置されているケースが以下3作品で存在する³¹⁾。

- ・『ハローキティ』＝4地域；栃木県那須塩原市（2種類）・東京都多摩市（3種類）・富山県富山市（1種類）・大分県日出町（1種類）
- ・『ゲゲゲの鬼太郎』³²⁾＝2地域；東京都調布市（6種類）・鳥取県境港市（1種類）
- ・『弱虫ペダル』³³⁾＝2地域；茨城県つくば市（7種類）・長崎県長崎市（27種類）

以上3作品においては、地域との結びつきが複

数存在し、マンホール蓋を誘因とした観光資源化の効果分散してしまう。さらにプロジェクト物は、佐賀県内に留まる『ゾンビランドサガ』を除けば、全国に分散し、「作品世界に身を浸すこと」は訪問動機にならず、狭義のアニメ・ツーリズムは成立しない。

(3) 「言ったモン勝ち」・「早い者勝ち」が現状の地域との結びつき

地域との結びつきがいわゆる「聖地」と呼ばれる物である。例えば2023年3月24日に茨城県土浦市で『機動警察パトレイバー³⁴⁾』を題材としたマンホール蓋が15種類お披露目された。

作品世界観では、敵役のレイバー（グリフォン）は、シャフトエンタープライズ土浦研究所で開発・製造されたため、土浦市は「聖地」のひとつであることは間違いない。が、東京都八王子市は、主役レイバーであるイングラムが製造された、篠原重工八王子工場所在地であり、また主人公が務める警視庁の警察学校多摩分校が所在し、レイバーの訓練などで活用しているが八王子市はマンホール蓋化をしていない。おそらく、土浦市の二番煎じとなることを恐れ八王子市で本作品をマンホール蓋化することはなかろうと思われる。

当然、使用許可に関する著作権問題のクリアは別にしての話である。権利者＝プロダクション・サイドと、地域サイドの良好な関係性は、マンホール蓋の実現に向けた一番のハードルではあるが、そこをクリアしたとして上記みっつの問題点が表面化してくると思われる。

本稿により、アニメ系・マンホール蓋の来歴・推移、地域展開があきらかにされ、「作品が生み出された」所（広義のアニメ・ツーリズム）でのマンホール蓋化が先行し、ついで「作品舞台」（狭義のアニメ・ツーリズム）でのマンホール蓋化が行われている。一方、「ポケふた」に代表されるような、新たな商機の獲得とセットになった全国展開が近年顕著になってきており、この場合、作品と地域の結びつきによる地

域性は喪失していることがあきらかにされた。ただし、マンホール蓋を商材とした新しい商機は確実に産み出されている。さらに今後、増えすぎたアニメ系・マンホール蓋への食傷感・早い者勝ちの傾向があるマンホール蓋化は問題化するであろうことを予測し、本稿を結ぶ。

今後、アニメ系・マンホール蓋の製作にあたり、デザイン料の発生の有無・継続的な使用料の発生の有無・著作権表示の有無など、本稿のみでは紙幅の都合上語りきれなかった部分について別稿を期する。なお、[https://www.surugadai.ac.jp/prof/kouji10/HP%E5%85AC%E9%96%8B%E7%94%A8\(%E7%B7%9A%E6%9C%89\)/newpage1.html](https://www.surugadai.ac.jp/prof/kouji10/HP%E5%85AC%E9%96%8B%E7%94%A8(%E7%B7%9A%E6%9C%89)/newpage1.html)に全国のアニメ系マンホール蓋を公開している。

【謝辞】

本稿執筆にあたり、マンホール蓋のデザインを掲載することにご許可をいただいた、次の秋田県横手市・茨城県大洗町・株式会社バンダイナムコフィルムワークス・高知県香美市・矢口プロダクション（50音順・敬称略）を挙げさせていただく。このほかにも、各自治体のご担当者様には多大なるご協力をいただいた。長大になるゆえ逐一の列挙は割愛しますが感謝申し上げます。

【注】

- 1) 天野宏司（2014）：熱海におけるコンテンツ・ツーリズムの普及－金色夜叉を事例にして－，歴史地理学 56（1），32-49 頁。
- 2) 天野宏司（2018）：アニメ・ツーリズムの可能性－その訴求力の検討－，駿河台大学論叢（56），73-81 頁。
- 3) 行政が前面に出ることもあれば，商工会などが窓口になるケース，別組織を立ち上げるケースなど，協力を受け入れる機関は様々である。
- 4) この開催については，当時の回顧として，亀田泰武（2020）：マンホール蓋デザイン普及の背景，月刊下水道，43（1），p.50. で「1986年」としている。一方，那覇市「マンホールデザインの歴史」（<https://www.city.naha.okinawa.jp/water/>

suidoukyoku/kouhou/kouhousi/nahanomizubackn.files/16_10.PDF) [2023/03/03 閲覧] では、1987年に「下水道マンホール蓋デザイン審査会」が開催されたように記述されている。

- 5) 例えば、江藤隆 (1998) : マンホールの歴史と展望, 月刊下水道, 21 (8) (287), p.1., 種市勉 (1999) : 省力型鋳鉄製マンホール蓋の開発, 鋳造工学, 71 (4), pp.270-275., 下水道管路管理の専門誌編集部 (2010) : マンホール蓋の開発とその変遷, JASCOMA, 16 (32), pp.14 ~ 18., 久米栄一 (2012) : 下水道マンホール蓋の維持管理, JASCOMA, 18 (36), pp.38-43., 松本匡史 (2015) : マンホール蓋を活用した官民協働による地域の活性化, 新都市, 69 (10), pp.49-51., 大石直豪 (2017) : グラウンドマンホールの役割と今後の展望, 月刊下水道, 40 (2), pp.50-55., 奥谷俊彦 (2018) : マンホール蓋を活用した官民協働による地域の活性化, 下水道協会誌, 55 (674), pp.2-29., 杉伸太郎 (2018) : 道路の一部としてのマンホールふたの役割, 建設機械施工, 70 (10), pp.75-78., 梅崎龍典・伊藤忠司・井上亮・和田淳・武藤真・神山守 (2022) : 耐スリップ性能向上マンホール蓋の開発, 下水道協会誌, 59 (714), pp.124-133 など。
- 6) 例えば、細田和彦 (2018) : 下水道マンホール蓋を活用した有料広告事業について, 下水道協会誌, 55 (674), pp.15-17., 見供良紀・吉田悠人 (2018) : 不用マンホール鉄蓋売却に始まった新たな価値の発見, 下水道協会誌, 55 (674), pp.12-14., 田島幸雄・西久保彩香 (2019) : 全国初! マンホール蓋を活用した有料広告事業の取組, 下水道研究発表会講演集, 56, pp.362-364., 河野太郎 (2020) : 全国初! マンホール蓋を広告に: 地域の活性化と自主財源確保の取組み, 月刊下水道, 43 (1), pp.68-72., 内野直人 (2021) : 所沢市のマンホール蓋広告事業と広報への取組, 下水道協会誌, 58 (699), pp.13-15. など。
- 7) 代表的なものを挙げると、二階堂政紀 (1997) : 市原市におけるマンホール蓋のデザイン化, 下水道協会誌, 34 (417), pp.13-16., 橋本市上下水

道部下水道課 (2012) : 橋本市の下水道事業とマンホール蓋, 月刊下水道, 35 (10), pp.30-35., 中根祐一 (2017) : 冠となるマンホール蓋〈つくば市〉, 月刊下水道, 40 (2), pp.35-40., 下水道広報プラットフォーム (GKP) 事務局, 公益社団法人日本下水道協会総務部広報課 (2018) : マンホール蓋を活用した広報展開について, 下水道協会誌, 55 (674), pp.4-6., 宮下高德, 松岡正文, 圓尾大輔 (2019) : 大活躍しています「明石の下水道マンホール蓋」: フタの役目だけでは退屈なので, 下水道研究発表会講演集, 56, pp.275-277., 田中洋 (2021) : 地元高校生とデザインマンホールで町おこし: 能登町, 月刊下水道, 44 (13), pp.30-33., 黒羽根能生 (2011) : デザインマンホールふたの運用 (横浜市) -- 公民連携によるホームタウンの地域活性化 (ビジュアル下水道), 下水道協会誌, 48 (587), pp.15-18. 松本匡史 (2015) : マンホール蓋を活用した官民協働による地域の活性化, 新都市, 69 (10), pp.49-51., 下水道広報プラットフォーム (2016) : 下水道広報プラットフォーム (GKP) の取組: 下水道のプレゼンス向上に向けて, 下水道協会誌, 58 (699), pp.4-6, 加藤裕之, 山田秀人, 高橋璃花子 (2017) : マンホール蓋の魅力とマンホールカード制作の舞台裏, 月刊下水道, 40 (2), pp.17-25., 月刊下水道編集部 (2017) : 人気高まるマンホールカード, 月刊下水道, 40 (2), pp.1-16., 竹田佳永 (2017) : マンホールカードにかける沖縄県の想い, 月刊下水道, 40 (2), pp.41-44., 大槻弥生 (2018) : 進化するデザインマンホールと周辺環境, 建設機械施工, 70 (3), pp.76-81., 伊藤孝優・仲道雅大 (2018) : 仙台デザインマンホールプロジェクトの取組みについて, 下水道協会誌, 55 (674), pp.18-20., 亀田泰武 (2020) : マンホール蓋デザイン普及の背景, 月刊下水道, 43 (1), pp.50-54., 大槻弥生 (2020) : マンホールに描かれた妖怪たち, 土木技術, 75 (10), pp.38-43., 中村憲二 (2020) : デザインマンホール蓋でまちゆく人に楽しみを, 月刊下水道, 43 (5), pp.27-30., 早野慎吾・董然 (2020) : 路面のコミック景観:

- 立川市・稲城市のデザインマンホールカバーについて、都留文科大学研究紀要, 92, pp.1-10.,「月刊下水道」編集部(2021):巡って楽しい!キャラクターデザインマンホール蓋, 月刊下水道, 44(11), pp.1-4.など。
- 8) 映画に関しては、忠田友幸(2017):onscreenマンホール蓋, 月刊下水道, 40(2), pp.56-59。交換事業については、小田原市下水道部下水道整備課(2018):流域下水道編入事業と姉妹都市間におけるマンホール蓋交換事業について, 公営企業, 49(11), pp.34-45。教育への援用については、斎藤一・向田茂・福光正幸(2018):デザインマンホールを題材とした地域学習支援サイト開発, 北海道情報大学紀要, 30(1), pp.103-110.に詳しい。
- 9) 例えば、「名探偵コナン」マンホール(鳥取県北栄町)は、直径約600mmの「すいか・ながいも健康マラソン大会」モチーフと直径約400mmの「シャーロックホームズ」モチーフのふたつがあり、後者はサイズから除外される。
- 10) 22種は期間限定のため、現在見ることは適わないものである。
- 11) 旧香北町に関しては、香美市下水道局への聞き取り、旧増田町に関しては横手市上下水道部下水道課および矢口プロへの聞き取りによる。
- 12) 自伝エッセイ「ゲゲゲの女房」は2008年に単行本化され、NHK連続テレビ小説「ゲゲゲの女房」の放送は2010年3～9月期である。マンホール蓋が設置された2009年頃には制作が発表されていた。
- 13) 村が設置主体になっているケース(プロジェクト物で寄付を受けたケースをのぞく)は皆無である。おそらくは財政規模的にオリジナルなマンホール蓋を制作する余裕がないのであろうと推察される。
- 14) 論者は、「秩父アニメツーリズム実行委員会」および「飯能アニメツーリズム実行委員会」の構成員として、地域サイドで計画するさまざまなアニメ・ツーリズムイベントの計画を知りうる立場にあり、プロダクションサイドとの実現に向けた交渉過程も見てきた。
- 15) ゆえに、たとえば東京都府中市の『ちはやふる』マンホール蓋は、コンテンツとしては①原作・②TVアニメ・③実写映画と3種類あるものの、権利者数が最も少ない①原作絵をマンホール蓋化していると考えられる。
- 16) 2022年12月31日現在。その後も山口県下関市に2023年1月に4種類が設置された。
- 17) 2022年10月6日には2024年度を目処に19自治体に設置することが発表された。https://www.gundam.info/news/hot-topics/01_9096.html[2023/03/03閲覧]
- 18) 『ゾンビランドサガ』は佐賀県全域を舞台とした物語であり、②作品舞台に分類することも可能ではあるが、プロジェクトとして佐賀県内全市町に設置することを目的としていたため、③に分類する。
- 19) (1)・(2)とも、2022年8月現在は募集を停止している。なお、北海道豊富町で担当者に聞き取りをしたところ、応募から寄贈による実現まで約1年の期間を要したとのことである。
- 20) このほか株式会社サンリオのキャラクターであるシナモロールは、2017年2月からしながわ観光大使を務めており、シナモロールをデザインしたマンホール蓋は8種類存在する。シナモロール≒品川の名前の類似性もさることながら株式会社サンリオの本社所在地が東京都品川区大崎(よって分類上は①)である縁が大きく作用していると思われる。
- 21) 大石直豪(2017):グラウンドマンホールの役割と今後の展望, 月刊下水道, 40(2), p.52.
- 22) プレート式マンホール蓋の導入過程については、松本匡史(2015):マンホール蓋を活用した官民協働による地域の活性化, 新都市, 69(10), pp.49-51.に詳しく、松本はプレート式マンホール蓋に2012年7月の下水道展'12神戸で出会ったことを述べている。
- 23) 「所沢市上下水道局マンホール蓋広告の掲載に関する要綱(平成30年4月1日要綱)」第10条第2項。この金額は純粋な広告料を除いている。

- 24) 実際には、鋳物式でも©表示をしているケースはあり、実際のテスト結果に基づく使い分けであるとは言いかねる。
- 25) ただしプレート式の場合、意図的な棄損によってプレートが剥ぎ取られてしまう可能性もある。東京都調布市は鬼太郎マンホールと同時期に、市内に映画スタジオが林立していた歴史性を表象して、映画スタジオに関するプレート型のマンホール蓋を設置した。これが現在では何者かによってこすり取られたのか？ほぼ原型を留めていない。鋳物式でも汚損の可能性はあり、実際静岡県沼津市では、『ラブライブ!』マンホール蓋に対するスプレーペンキによる汚損があり、一時撤去された。
- 26) うどん≒ヤドンの類似性は2017年に「うどん県PR団」にヤドンを任命させる。マンホール蓋の設置は2019年からのことである。
- 27) ラッキーは2019年から「ふくしま応援ポケモン」に任命され、2020年からマンホール蓋が展開する。
- 28) <https://www.village-v.co.jp/news/item/13459>[2023/03/03 閲覧]
- 29) 例えば「- 子供から高齢者まで楽しめるお店 - エイジレス グッズ」(<https://ageless-goods.com/SHOP/19172/list.html>[2023/03/03 閲覧]) や、「マンホールグッズ倶楽部」(<https://manhole.thebase.in/>[2023/03/03 閲覧]) など。
- 30) アニメ系・マンホール蓋ではないものの、神奈川県逗子市は、申請によって「太陽の季節記念碑」と逗子湾から望む富士山が描かれたカラーマンホール蓋のデザインを使用した商品を有償/無償にかかわらず使用料の徴収なしで使用出来ることを要項に定めている。
- 31) 東所沢に設置されているKADOKAWA系アニメに関するマンホール蓋は除く。
- 32) ©水木プロ
- 33) ©渡辺航 (秋田書店)
- 34) © HEADGEAR